



# 旧小笠原家書院

伊豆木小笠原家は初代長巨が慶長5年(1600)に武蔵国(埼玉県)本庄から移封されたのが始まりです。長巨は徳川家康から信濃国伊那郡のうち10万400石を支配するよう命ぜられ、その庄内の伊豆木に株料として千石の地をたまり、ここに居館を構えました。その遺構の一部が旧小笠原家書院で元和3年(1617)の建設と伝えられています。伊豆木小笠原氏は中世松尾城(約7キロ北東にある)に拠って当地方で勢力をふるった松尾小笠原家の一族で、天正18年(1590)本庄へ移っていたのを再び旧地に帰ったもので、伊那地方での中世以来の名家でした。

伊豆木に屋敷を構えたのはここが中世に城のあった要害の地だったからです。今でも屋敷の裏山には空堀や曲輪の跡が残っていて、城山と呼ばれています。館(やかた)は小さな城郭の形であったことが古図から判ります。大手橋から坂を登ると城門と物見櫓があり、門内は枳形をなして、ここから右手に折れ曲り石垣上の台地へ出られました。台地上には、供侍所・厩舎があり、つき当りに玄関を備えた御用所があって、その裏側に書院・居間・御守殿・台所など数多くの建物が建ち並んでいました。これは中世以来の土豪の典型的な居館構えでしたが、残念ながら明治5年の帰農に際し、これらの城郭建築はすべて取り払われ、この書院と玄関だけが残されました。幸い旧城門や物見櫓の石垣が残されていて、本来の城郭の構えがほぼ判ります。

書院と玄関は昭和27年に国の重要文化財に指定されましたが、建物と共にこの屋敷地や裏の城山まで含めた一帯が貴重な城郭遺跡です。



## 書院の建立年代と復元

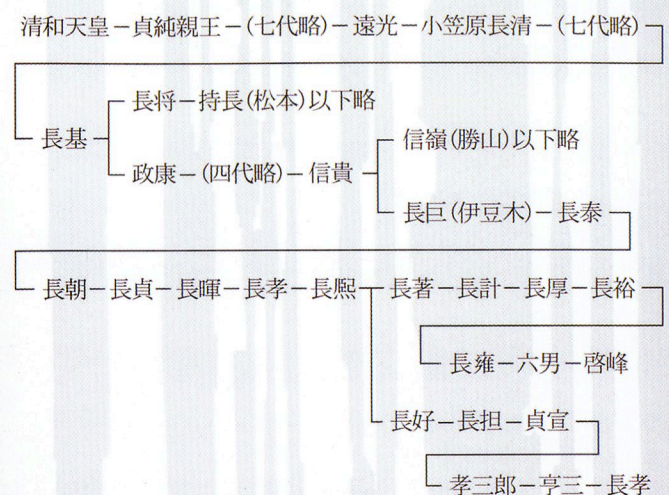
書院は昭和44~45年の修理で「寛永」の墨書が発見され、寛永初期(1624~1634)頃完成したことが判りました。幸い軸組や主要構造材はよく保存されており、修理は半解体を行い、創建当時の姿に復元されました。

解体修理から38年が経過した平成20年、傷みが進んだ書院と玄関の屋根について「こけら葺」の全面葺き替え作業を実施し、美しい屋根の姿を再び復元しました。



● 小笠原屋敷古図

# 小笠原家系図



## 資料館平面図



鉄骨造(一部鉄筋コンクリート造)  
 建築面積: 435.00m<sup>2</sup>  
 床面積: 508.98m<sup>2</sup>

妹島和世と西沢立衛との建築家ユニットSANAAの設計で1999(平成11)年に竣工しました。SANAAは、2010年に建築界のノーベル賞ともいわれるプリツカー賞を受賞しています。

## 主な展示内容

### ◇伊豆木小笠原家の出自と系譜

清和天皇の第六皇子貞純親王から興った小笠原家の系図をはじめ伊豆木千石の受永状・江戸城の呼出状・馬印・紋譜・歴代の花押・鎧兜・陣笠・道中羽織・刀懸・刀・刀筒・槍・薙刀・矢筒・矢などが展示されています。

### ◇小笠原流を伝える小笠原家

小笠原流の秘伝書を中心に分かり易い解説文が展示されています。主なものは、流鏑馬・犬追物・草鹿・笠懸・母衣・大的・太刀・軍扇・旗・鎧・幕・軍詞・虎之巻・暮目の実物・犬追物のジオラマ・血判を押した起請文などです。

### ◇伊豆木での生活と領民とのかかわり

殿さまや家族が使用した金屏風・お膳・重箱・湯筒・盃・杯洗・柄杓・酒器・しゃもじ・貝覆・広蓋などの日用品、城下のきまり・制札・目安筐など領民とのかかわりを示すものが展示されています。

### ◇上記の他、一定期間特別展示が行われます。

